

シラバス

科目名	原価計算	単位数	3単位	学年・学科	3学年 流通・国際・情報	必修	
教科書名	商業350 (実教出版) 原価計算 新訂版			副教材名	最新段階式簿記検定問題集 全商1級原価計算(実教出版) 全商簿記実務検定模擬問題集 1級原価計算(実教出版)		
科目の目標	製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得させ、原価について理解させるとともに、原価情報を活用する能力を育てることを目標にします。						
学習内容と進め方	単元ごとに小テストを実施し、評価の参考にする。検定試験の都合により学習時間が不十分な単元は、検定試験後の授業において補完する。						
学習の留意点	(1)企業における取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を習得するため、取引を分解し、取引要素の結合関係を確認しながら学習を進めることで理解が深まります。 (2)教科書に書かれている文章を読んで覚えるだけでなく、授業で取り上げる例題や記帳練習を繰り返すなど、様々な課題を解決することで、より高度な学習に進むことができます。 (3)授業に積極的に参加することが大切です。より合理的、能率的に記帳する方法を探求したり、わからないところを級友と教え合うなどしながら学習を進めることで、学習内容の理解を図ることができます。						
月	単元	単位数	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)
				1	2	3	
4	オリエンテーション	8	製造業と簿記・工業簿記と原価計算	○			副教材・プリントによる授業および演習
5	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記	13	原価の意味・要素の分類・目的・手続き・期間・種類 製造業と簿記・製造業における特有な勘定	○			
6	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算と記帳 第5章 労務費の計算と記帳 第6章 経費の計算と記帳	14	材料費の分類・購入・記帳・保管・在庫記帳・消費高 労務費の分類・賃金支払高・消費高・賃金以外の労務費	○	○	○	期末考査 単元毎(小テスト)
7	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算	6	経費の分類・消費高の記帳・計算 個別原価計算と原価計算表・原価計算表の記入		○	○	前期授業評価 前期自己評価
8	第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算	6	原価計算表と製造勘定・製造間接費の配賦 製造間接費の予定配賦		○		単元毎(小テスト)
9	第10章 工程別原価計算 第11章 減損・仕損じの処理	6	部門別計算の意味・原価部門の設定・手続き 総合原価計算・種類 単純総合原価計算・等級別総合原価計算 組別総合原価計算	○	○	○	
10	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引	10	工程別原価計算・加工費工程別総合原価計算 副産物などの評価 仕損品の処理・作業くずの処理 完成品の受け入れ・製品の販売	○	○	○	中間考査 単元毎(小テスト)
11	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算(その1) 第15章 標準原価計算(その2)	14	決算の手続き・財務諸表の作成 会計期末における原価差異の処理 本社・工場間の取引			○	後期授業評価 後期自己評価
12	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2)	10	原価管理と標準原価計算の意味 標準原価計算の手続き・損益分岐点分析(CVP分析) 標準原価の設定・標準原価の計算	○	○	○	期末考査
1	(家庭学習期間)	10	実際原価の計算・原価差異の計算と分析 パーシャルプラン・損益計算書作成 利益計画と直接原価計算の意味 直接原価計算の手続き 直接原価計算による損益計算書 C V T分析・損益分岐図表	○			
評価方法	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算の基本構造について理解している。 (小テスト・定期考査・提出物など)						
評価の観点	観点	趣旨					
	1. 知識・技能	製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。 (授業に積極的に参加したかどうかなど)					
	2. 思考・判断・表現	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。(自ら考え解ろうと努力したかなど)					
3. 主体的に学習に取り組む態度	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現する。 (問題集や課題などの取り組み状況や提出状況など)						

評価基準	1. 知識・技能	A原価計算と工業簿記に対して強く興味関心を持ち、実践に役立つ知識を身につけている。 B原価計算と工業簿記に対して強く興味関心を持ち、実践に役立つ知識を十分ではないが身につけている。 C原価計算と工業簿記に対して強く興味関心を持ち、実践に役立つ知識を身につけているが不十分である。
	2. 思考・判断・表現	A原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて活用ができる。 B原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて十分ではないが活用できる。 C原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて不十分である。
	3. 主体的に学習に取り組む態度	Aビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現することができる。 Bビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を純分ではないが表現することができる。 Cビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現することが不十分である。